

福井県ふるさと文学館報

第4号

いあこわり

館長 中社 敏朗

当館は今年二月一日に開館三周年を迎えました。開館以来、県内外から多くの方にご来館いただき、厚くお礼申し上げます。今年度の夏と冬の企画展では、ジャンルを超えた切り口から本県ゆかりの作家や作品を知っていただきたいと考え、夏の「医と文学」では医学、冬の「明治維新一五〇年 近代文学の夜明け」では歴史を取り入れた展示を行いました。また、秋の「三好達治展」では、全国初公開となる三好の卒業論文や大型書幅などを展示し、福井の文化人や若者との交流も紹介するなど、ゆかり作家の実像に触れていただきました。

今年度のイベントでは、新たに文学のお祭り「文学フェスタ」を開催しました。地元で活動しているグループの出演、同人誌の紹介・販売のほか、作家・宮下奈都氏のトークショーや大手文芸編集者による小説講座など、終日楽しんでいただきました。また、文学賞を受賞された藤田宜永氏や荒川洋治氏など著名作家による講演会、三期目となる「ふくい文学ゼミ」、若手作家と気軽に語り合う文学カフェ、短歌や俳句の創作に関する出前教室などを開催しました。

他館との連携では、一〇月に当館を会場にして全国文学館協議会部会が開催され、日本各地から三五の館・団体が集まりました。また一一月には、荒川区立ゆいの森あらかわ吉村昭記念文学館と全国初の「おしどり文学館協定」を締結しました。当館特別館長・津村節子氏と吉村昭氏ご夫婦のそれぞれの出身地

に建つご縁に基づき、文学の面から両地域の交流を進めてまいります。

今後とも文学を通してふるさと福井を身近に感じていただけるよう多様な機会を設けてまいりますので、皆様のご支援をお願いいたします。

企画展

新収蔵品展

会期 四月二十九日(土)～六月二五日(日)

ご贈りいただいた有明夏夫の原稿や愛用品を中心に、昨年度収集した資料を展示・紹介しました。有明夏夫は小中高時代を福井で過ごし、一九七九年に『浪花諸人往来』で直木賞を受賞。その後、『幕末早春賦』や『俺たちの行進曲』など福井を舞台にした作品も執筆しました。今回の展示では、寄贈資料約二五〇〇点の中から一部を公開。執筆風景や直木賞正賞の懐中時計、自筆の原稿や手帳などを展示しました。また、橘曙覧の文集『沾哉集』収録の「初ゆき」「田家鳥」が書かれた屏風なども展示しました。

医と文学 く杉田玄白からかこさとし、山崎光夫まで

会期 七月二五日(土)～九月一八日(月・祝)

杉田玄白没後二〇〇年にちなみ、玄白の文学者としての側面を紹介しました。あわせて、人間の身体や健康、医療をテーマ



新収蔵品展

に作品を書いた本県出身のかこさとし氏、山崎光夫氏を紹介しました。

第一章では、『解体新書』出版の苦勞を回想した『蘭学事始』、当時の社会情勢を批判的に綴った『後見草』、自身の医師としての人生を影法師との問答形式で語った『形影夜話』など玄白の随筆作品とともに、玄白絶筆の書「医事不如自然」などを展示し、文筆家としての玄白に焦点を当てました。

第二章では、絵本作家・かこさとし氏が描いた作品『むしばミュータンスのぼうけん』や『たべものたび』などを紹介しました。作品の中にかこ氏は、子どもたちの素朴な疑問に答えるとともに、子どもの成長にとって大切な生活のあり方や環境について大人たちに提言しており、子どもだけでなく大人にも見ごたえのある展示になりました。

第三章では、「サイレント・サウスポー」や「ジェンナーの遺言」などで三度直木賞候補となり、『藪の中の家』で新田次郎文学賞を受賞された山崎光夫氏を紹介しました。直木賞候補となった作品の自筆原稿をはじめ、執筆メモなど創作の裏側がわかる貴重な資料を展示するとともに、芥川龍之介や斎藤茂吉の自筆資料など関連資料も紹介しました。



三好達治展

会期 一〇月一四日(土)～二月一七日(日)

三好達治は一九〇〇年、大阪に生まれ、一九三〇年に第一詩集『測量船』を刊行、堀辰雄や丸山薫とともに『四季』を創刊するなど、日本の近代抒情詩を代表する詩人です。

一九四四年、三好は三国出身の文人秦秀雄の勧めで坂井郡雄島村(現・坂井市三国町)の豪商森田家の別荘に疎開しました。滞在中、三好は『故郷の花』『砂の砦』といった詩集を刊行、越前三国を「心のふるさと」と記すなど、福井を愛しました。また、福井県民歌や三国高校校歌、大野高校校歌を作詞し、福井の豊かな自然を歌詞に織り込むとともに、新しい時代を担う人々へ激励のメッセージを送りました。

本展では、第一章として、『測量船』収録の「春の岬」の色紙や「雪」の短冊、肉声の朗読など、三好達治の作品世界を紹介しました。

第二章では、卒業論文や書幅「師よ萩原湖太郎」、室生犀星、桑原武夫からの手紙、愛用していた筆筒など初公開の貴重な資料を展示し、三好の足跡を追いました。

第三章では、福井での交流が分か



る資料として、高浜虚子との句会に
関する資料や中野重治からの書簡、
旧居の瓦などを展示しました。

また、三好達治作品をキャラクター
ター化したミヨシくんが登場する清
家雪子氏の漫画『月に吠えらんねえ』
も紹介し、幅広い世代の方にご来館
いただきました。

明治維新一五〇年 近代文学の夜明け

会期 一月二〇日(土)～三月二五日(日)

平成三〇年が明治維新一五〇年にあたるのを機に、西洋文学
を取り入れながら新しい日本文学を創っていった明治の文豪た
ちとその作品、また同時期に日本文化
の素晴らしさを海外に発信した福井ゆ
かりの岡倉天心を紹介しました。

第一章では、西洋文学に学んだ坪内
逍遙が人間をありのままに描くことの
重要性を説き、二葉亭四迷が分かりや
すい表現を探究して話し言葉(口語体)
で小説を書き始めたことなどを紹介。
『小説神髓』『浮雲』などの貴重本や、
二葉亭四迷が翻訳したロシア文学の自
筆訳稿「むかしの人」「おひたち」な
どの資料を展示し、現在の文体の原型
が作られる過程を紹介しました。

第二章では、心の葛藤や個人の感情を主題にする浪漫主義、



私的な体験を赤裸々に描いた自然主
義など、新しいテーマを書いた小説
を紹介しました。森鷗外の「舞姫」
草稿(複製)、樋口一葉の「たけくら
べ」草稿、夏目漱石の「道草」草稿
など、目にする機会の少ない自筆資
料を展示し、新たなテーマを生み出
した作家たちの情熱や苦心を紹介し
ました。

第三章では、西洋文化が称賛される時代にあつて『茶の本』な
どの英文著作により海外に日本文化の素晴らしさを伝え、外国
人の日本観に大きな影響を与えた岡倉天心を紹介。イギリスや
アメリカで出版した英文三部作『東洋の理想』『日本の覚醒』『茶
の本』の初版本に加え、謡曲を題材
にした『ATAKAI』[KO ATSUMORI]
自筆草稿、日本の伝承を題材にした
オペラ台本『The White Fox』タイプ
稿など、天心が創作した物語に関す
る資料も展示し、天心の幅広い活動
を紹介しました。

文学を切り口にして、激動の時代
に生き、新しい文化を創造しようと
した作家達の気概を感じていただけ
たのではないかと思います。

また、近代日本や福井の成り立ちにまつわる貴重資料を展示
した国立公文書館所蔵資料展「明治日本とふくいの軌跡」
(二月二〇日～三月一八日)を同時開催し、文学と歴史の両面
から明治時代を紹介しました。



プロローグゾーン展

福井の春を描いた文学

期間 三月一日(金)～六月二日(水)
足羽川の桜や春の高校バレーなど、福井の春が描かれた文学を紹介しました。

福井ゆかりの作家と「うた」

期間 三月二日(金)～六月二日(水)
ゆかり作家が作詞した校歌や、うたにまつわる作品を紹介しました。

福井の夏を描いた文学

期間 六月三日(金)～八月二日(水)
九頭竜川や水島、半夏生鯖やくずまんじゅうなど、福井の夏の自然や食べ物で描かれた文学を紹介しました。

福井ゆかりの作家といきものく身近ないのちを見つめて

期間 六月三日(金)～八月二日(水)
犬や猫などペットをはじめ、ゆかり作家が愛情を注いだ身近ないきものにつつまれる作品を紹介しました。

だるまちゃん誕生五〇年

期間 六月三日(金)～一月四日(土)
かこさとし『だるまちゃんとしてんぐちゃん』の刊行から五〇年を記念して、複製原画と絵本八作品を紹介しました。

地域に根ざした文学く福井の同人誌く

期間 八月二日(金)～二月二日(水)
詩誌、短歌・俳句誌、文芸総合・児童文学誌など、県内で刊行中の同人誌を三期に分けて紹介しました。

福井の秋を描いた文学

期間 九月二日(金)～二月三日(木・祝)
新米、紅葉など、福井の秋の味覚や風景を描いた文学を紹介しました。



おしどり文学館協定締結記念特集

期間 一月五日(日)～二月二日(水)

荒川区立ゆいの森あらかわ吉村昭記念文学館との全国初の「おしどり文学館協定」を記念し、吉村昭・津村節子夫婦の作品などを紹介しました。
かに！カニ！蟹！

期間 一月二日(金)～二月二日(水)

中野重治や開高健など、多くの文人を虜にした越前がにを描いた作品を紹介しました。

ようこそ文学館へくふるさと文学館に来館された作家たちく

期間 一月二日(金)～四月八日(日)
平成二九年に来館した作家の中から一六名の色紙と写真を紹介しました。

タイムリースポットコーナー

藤田宜永氏、荒川洋治氏受賞特集

期間 三月二日(金)～七月二日(金)
藤田宜永氏が吉川英治文学賞、荒川洋治氏が鮎川信夫賞を受賞したことを記念し、受賞作や色紙などを紹介しました。

福井ゆかりの作家と手紙く師、友人、家族へく

期間 七月三日(土)～九月二七日(水)
ゆかり作家が身近な人に送った手紙を紹介しました。活躍しています！福井出身の女性作家

期間 九月二日(金)～二月二日(水)

夏に新刊を発表した三人の女性作家を取り上げ紹介しました。
祝・かこさとし氏 巖谷小波文芸賞受賞記念展示

期間 一月二日(金)～二月二日(水)

かこさとし氏が第四〇回巖谷小波文芸賞を受賞したことを記念し、複製原画や絵本などを紹介しました。



教育普及活動

文学フェスタ

一月に、県内で文芸創作を行うグループが一堂に会して作品を発表する場として、また作り手や読者が交流する場として、文学フェスタを初めて開催しました。

図書館エントランスホールには、県内を拠点に活動している同人グループや高校、大学の文芸サークル、ふくい文学ゼミの修了生など一八団体がブースを開設し、同人誌の展示、頒布や活動紹介を行い、大勢の来場者で賑わいました。



また、小説創作講座や福井市在住の小説家・宮下奈都氏のトークショー、書き手や読書好きが集まった文学交流会、スタンブラリーなどのイベントも行い、丸一日、文学のお祭りを楽しんでいただきました。

宮下奈都氏は、「読むよろこび、書く楽しみ」と題して、自身の創作を中心に語りました。宮下氏は、物語の結末が初めから見えることはあまりなく、書きながら自分も一緒に体験してたどり着くという書き方であることを明かし、自分なりの書き方を見つけていることが小説を書くことでは自分にとつて自然なことであり、福井に住んでいるからこそ書けるものを書いていきたい、と力強く語りました。



作家講演会

六月に藤田宜永氏の吉川英治文学賞受賞を記念し、また七月には荒川洋治氏の鮎川信夫賞受賞を記念して講演会を開催しました。藤田氏は、作家生活三〇年を振り返りながら、受賞作『大雪物語』の誕生秘話や妻小池真理子氏とのエピソードを紹介しました。荒川氏は、「書くことは読むこと」と題して、現代人が読むべき本をジャンル別に紹介しながら読むことの大切さを訴えました。八月に開催した「医と文学」関連講演会では、本県出身の山崎光夫氏が医学的検証に基づきながら小説に仕上げていく過程や、幼少時代の福井の思い出を語りました。また、三月に開催したふくい風花随筆文学賞授賞式・記念講演会では、芥川賞作家・大岡玲氏が、「文章を書くということ」と題し、誰もが手軽に発信できるようになった現代における文章について話しました。



オーサートーク 作家による出前授業

若者に人気の作家が学校を訪問して出前授業を行う「オーサー・トーク」を二校で開催しました。「珈琲店タレーランの事件簿」シリーズがヒットしている岡崎琢磨氏が、一二月に金津高校および武生東高校を訪れました。講演では、小学生から大学生までの生活や、郷里でのお寺の手伝いなどを振り返りながら、作家デビューに至った道のりを話しました。



一日に原稿用紙一五枚程度を執筆していて、作家は楽ではない

がおもしろい仕事であると語りました。常に読者の読後感を意識して執筆していることや、ラストシーンへのこだわりなども紹介しました。自分が想像する以上に人生にはいろいろな可能性があり、誠実に努力を続けていけばチャンスが来た時につかむことができる、と高校生にメッセージを送りました。

文学カフェ

福井ゆかりの作家や関わりの深い方のお話を伺い、くつろぎながら身近に交流できる文学カフェを七回開催しました。

中高生を対象にした「ジュニア文学カフェ」には県内外の高校文芸部員らが参加し、作家の南部くまこ氏（五月）や谷崎由依氏（九月）の創作の話や、実際に物語を創ったりしました。作家の中村理聖氏は、

新刊『若葉の宿』取材時のエピソードを中心に執筆活動について話しました（七月）。かこさとし氏の長女・鈴木万里氏は、かこ氏の創作の原点となる戦後のセツルメント活動について原画を用いて紹介しました（九月）。三好達治展の関連企画として、漫画『月に吠えらんねえ』作者の清家雪子氏には、自作の登場人物や三好達治への思いなどを聞きました（十一月）。詩人の中島悦子氏は、自身の詩や三好達治の作品について話しました（十二月）。県立美術館学芸員・佐々木美帆氏は、岡倉天心について話しました（一月）。どの文学カフェも、福井の文学への理解を深める良い機会となりました。



ふくい文学ゼミ

三期目となる「ふくい文学ゼミ」を開講。今年度は対象年齢を五〇代まで拡大し、二四名が受講しました。講義では、小説執筆の心構えから、キャラクターやストーリーの作り方、視点の置き方など、執筆の留意点を学びました。受講生の課題作品を用いた合評では、良い点や悪い点の感想を述べたり、疑問点や矛盾点を指摘し合ったりして実践力を磨きました。

出前文芸創作教室

県内で活躍する歌人や俳人が学校を訪問し、創作のノウハウを教える出前教室を開催しました。七月に三国中学校で短歌、河野中学校で俳句、一〇月に丹南高校、十一月に科学技術高校、十二月に福井南高校で短歌の授業を行いました。

短歌の授業では、歌人の紺野万里氏が講師に、短歌の形式やリズム、歴史について音読しながら学んだり、ペアで独楽吟を合作したりしました。俳句の授業では、俳人・中内亮玄氏から俳句の生まれた歴史や正岡子規の功績などを学んだ後、著名俳人の句を用いた穴埋め問題に取り組みました。



創作講座

文章講座を全三回、俳句講座、短歌講座、文学講座を各一回開催しました。文章講座は、ふくい風花随筆文学賞実行委員会

との共催で行いました。初めて講師に迎えた出版社の校正者は「言葉の品質管理をするつもりで文章を読むことが大切。何を伝えたいかを明確に」と参加者にアドバイスしました。短歌講座では、福井ゆかりの歌人・山川登美子についての理解を深めながら、基本的な短歌の作り方やポイントを学びました。文学講座では、早稲田大学名誉教授・中島国彦氏から、夏目漱石を中心に日本近代文学を拓いた作家たちとその魅力について学びました。



ギャラリー展示

図書ゾーンを利用して、文学とかわりの深い学生の作品などを紹介しました。

＊感じて描く 登美子の短歌

期間 九月八日(金)～一〇月一日(日)

山川登美子の短歌をもとに仁愛女子短期大学の学生が描いた絵を、短歌とともに展示

＊開館三周年記念ふるさと文学館ポスター展

期間 一月二六日(金)～二月二五日(日)

開館から平成二九年度秋季までに開催した企画展ポスターを展示

＊高校生が創った短歌作品展

期間 二月二三日(金)～四月八日(日)

出前文芸創作教室において生徒が作った作品を展示

(科学技術高校、丹南高校、福井南高校)



平成29年度に開催したイベント一覧

期日	イベント名	場所	期日	イベント名	場所
4/8(土)	時代文学キネマ「桜田門外ノ恋」	映像ルーム	10/21(土)	第3回ふくい文学ゼミ	研修室
4/29(土・祝)	キッズ文学キネマ「だるまちゃんとおてんぐちゃん」[野ばら]	映像ルーム	10/22(日)	昭和文学キネマ「蜜のあわれ」	映像ルーム
5/3(水・祝)	キッズ文学キネマ「走れメロス」[壺野峠]	映像ルーム	11/8(水)	出前文芸創作教室(短歌・紺野万里氏)	科学技術高校
5/7(日)	キッズ文学キネマ「むくはとじゅうの名犬物語」	映像ルーム	11/18(土)	第15回文学カフェ(清家雪子氏)	映像ルーム
5/27(土)	ジュニア文学カフェ(南部くまこ氏)	多目的ホール	11/19(日)	文学フェスタ「宮下奈都氏トークショー」	多目的ホール
5/28(日)	俳句講座(中内亮玄氏)	研修室	11/19(日)	文学フェスタ「小説の書き方 入門編」	研修室
6/17(土)	第1回ふくい文学ゼミ	研修室	11/19(日)	文学フェスタ「文学交流会」	カフェテリア
6/24(土)	藤田宜永氏講演会	多目的ホール	11/19(日)	文学フェスタ「文芸同人誌ブース」	エトランスホール
7/5(水)	出前文芸創作教室(短歌・紺野万里氏)	三国中学校	11/26(日)	昭和文学キネマ「雪国」	映像ルーム
7/9(日)	第1回文章講座(山下裕己氏)	研修室	12/10(日)	昭和文学キネマ「バンドラの匣」	映像ルーム
7/12(水)	出前文芸創作教室(俳句・中内亮玄氏)	河野中学校	12/11(月)	オーサー・トーク(岡崎琢磨氏)	金津高校
7/16(日)	文学キネマ「わが母の記」	映像ルーム	12/12(火)	オーサー・トーク(岡崎琢磨氏)	武生東高校
7/17(月・祝)	荒川洋治氏講演会	多目的ホール	12/17(日)	第16回文学カフェ(中島悦子氏)	研修室
7/23(日)	第13回文学カフェ(中村理聖氏)	研修室	12/18(月)	出前文芸創作教室(短歌・紺野万里氏)	福井南高校
7/23(日)	せっちちゃんの紙芝居ライブ	映像ルーム	11/14(日)	第4回ふくい文学ゼミ	研修室
8/6(日)	第2回文章講座(増永進男氏)	研修室	1/27(土)	第17回文学カフェ(佐々木美帆氏)	研修室
8/11(金・祝)	文学キネマ「ブラック・ジャック劇場版」	映像ルーム	1/28(日)	明治文学キネマ「天心」	映像ルーム
8/20(日)	山崎光夫氏講演会	多目的ホール	2/24(土)	明治文学キネマ「坊っちゃん」	映像ルーム
8/27(日)	第2回ふくい文学ゼミ	研修室	2/25(日)	第5回ふくい文学ゼミ	研修室
9/9(土)	第14回文学カフェ(鈴木万里氏)	研修室	3/4(日)	第21回「ふくい風花随筆文学賞」授賞式	多目的ホール
9/10(日)	文学キネマ「遠き落日」	映像ルーム	3/4(日)	大岡瑠氏講演会	多目的ホール
9/16(土)	ジュニア文学カフェ(谷崎由依氏)	多目的ホール	3/11(日)	短歌講座(北野よしえ氏)	研修室
10/1(日)	第3回文章講座(井上孝夫氏)	研修室	3/11(日)	明治文学キネマ「天守物語」	映像ルーム
10/4(水)	出前文芸創作教室(短歌・紺野万里氏)	丹南高校	3/24(土)	文学講座(中島国彦氏)	多目的ホール

資料紹介

「三好達治展」において展示した三好愛用の筆筒は、世田谷で暮らししていた時に書斎で原稿や愛用品の保管などに使用していたものです。企画展の開催を機に、ご遺族から当館へご寄贈いただきました。



資料寄贈のお願い

文学館では、福井の文学に関する資料を収集、保存し、次の世代に継承するとともに展示・研究などで活用しています。

福井ゆかりの作家や作品に関する資料(自筆原稿、書簡、書画、挿絵、愛用品、写真、映像等)がございましたら、文学館までご寄贈くださいますようお願いいたします。

【寄贈受贈】

平成二九年度にご寄贈いただいた方々

浦西和彦氏、加藤昭雄氏、定道明氏、長谷政志氏
三好和子氏、山本久江氏、吉川道江氏 (五〇音順)

ふるさと文学館ホームページ・フェイスブック・メルマガ

文学館では、ホームページやフェイスブック、メルマガなどでも展示、イベントなどの情報を発信しています。展示更新や文学館のイベント最新情報、職員のつぶやきなどぜひチェックしてみてください。

メールマガジン登録↓「eマガふくい 文学館」で検索

編集後記

新収蔵品展を含む年四回の大型企画展、様々なテーマを扱ったプロログゾーンの展示、講演会や文学カフェ、創作講座など例年のイベントに加え、今年度は文学フェスタや図書ゾーンでのギャラリ展示などの新たな企画も加わり、年間を通じてお楽しみいただけるのではないかと思います。

今後ともふるさと福井の文学に親しんでいただくための企画展や各種イベントを開催してまいりますので、どうぞご期待ください。

ふるさと文学館へはフレンドリーバス(無料)が便利です。
福井駅東口/バスターミナルから30分間隔で運行(約15分)

観覧料・無料
休館日・毎週月曜日(休日の場合は翌日)
祝日の翌日(翌日が土日の場合は除く、年末年始)
資料点検期間・第4木曜日(1月)によって変更あり
土日祝 9時~18時

福井県ふるさと文学館報 第4号

発行日 平成30年3月31日
創刊日 平成27年3月31日

発行所 福井県ふるさと文学館
福井市下馬町 51-11
TEL : 0776-33-8866
http://www.library-archives.pref.fukui.jp/
https://www.facebook.com/fukuibungaku/ (55030)

福井県 FUKUI MUSEUM OF LITERATURE
ふるさと文学館